



透宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮



彦島八幡宮社報
第 4 3 号



お陰様の心で 日々よみがえり

宮 司 柴 田 宜 夫

宮司の柴田です。平素は、氏子崇敬者の皆様方には、当八幡宮運営に関します事や、さらには、祭典行事等の齎行(さいこう)につきまして、格別の「配慮」ご理解を賜り、お力添え下さりまして、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

宮司を拝命(はいめい)して、七年を迎えますが、微力ではありますが、大過(たいか)なく、御奉仕(ごほうし)できましたのも、偏(ひと)へし、皆様のお支えの賜物(たまひ)です。二年二回発行している社報「産土(うぶすな)」(本号で、四十三号を迎えます。第一号を発行したのは今から十八年前の平成六年のことであったと記憶しています。当時は「フワロ」の時代で原紙(げんじ)に原稿を貼(は)りつけて作成していました。私も、三十代前半と年も若く、夜を徹して編集作業に追われていた頃を懐(なつか)しく思い浮かべています。手作りの新聞でありましたから、部数も限られていましたが、オフセットの輪転機(りんてんき)の導入で、印刷部数も飛躍的に増え、町内の回覧部数まで発行部数を伸ばしました。さらに、先代宮司の英断(えいだん)で、発行部数を各戸配布の一万二千部さらにナカハラプリンテックスさんに印刷をお願いするという、外部発注(がいぶはつしゆ)という現在の社報発行に至っています。

また、宮司就任(ぐうしじゆじん)一年目を期して、宮司ニュースとして毎月発行している、宮司プレスも、七十三号を数え、六年間継続(けんじゆう)しています。「産土」にも、宮司プレス総編集として、半年分の、宮司プレスを掲載(こうがい)していますので、本号でも閲覧(えんらん)えつらんが可能です。そして、祭典後(さいでんご)さいてん(こ)朝例会(あさがお)あさがお(かい)や講演会(こうげんかい)等で、その宮司プレスの内容をわかりやすく、お話をしよう心掛けています。これが、彦島八幡宮の「三三三」です。「産土」は、発行部数も多く、マスメディアとは、少し大げさではありますが、マスコミ(の)といえるでしょう。「宮司プレス」は、発行部数も少なく、私(わたし)自(みづか)らパソコンを駆使(くわし)して編集(へんしゆ)していますので、「三三三」です。そして、その内容をお話をする、「ロコミ」です。この「三三三」で、確実に情報を発信(はつしん)したいと考えています。それは、「今流行(はやり)りゆうこう(こ)が不(ふ)易(えい)ふえき(を)侵(しん)食(じやく)(する)時代(た)だといわれています。「価値観(かちかん)がちかちか」が多様化(たさうか)する時代(た)だです。しかし、悠久(うきうき)うきうき(の)永(なが)なが(い)歴史(れきし)の中で、時代(た)はどんな(に)変遷(へんせん)へんせん(し)ようと、移り変わる(う)とも、変(かわ)るてはならない、不(ふ)易(えい)、持(も)ち続(つ)けなければならぬ、価値観(かちかん)を伝える(い)かなければなりません。伝統(でんどう)的(てき)信念(しんねん)の別名(な)である、神道(かみち)を伝え守(まも)る、防(か)えさきもり(が)、私(わたし)の使命(しめい)でもあるのですから。情報(じほう)を発信(はつしん)するわけですから、一(いつ)方的(てき)であつてはなりません。双方(たうほう)向(む)そうほう(こう)で、皆(みな)からのご意見(ごいせん)やご要望(ごようぼう)時にはお速(すみ)いさめ等(とう)もですね、しっかりと受け止(と)める、受信(じゆしん)をして、健全(けんぜん)なる八幡宮(はつぱんぐう)の運営(えんぎん)に邁進(まいしん)まいしん(したい)と考えています。これからも、変わらぬご支援(ごしえん)ご協力(ごきやくり)をお願い申し上げます。

さて、光(ひかり)にかかると枕詞(まくらことば)「存在(そんざい)でしようか。実は、たまゆら」といいます。「たまゆら」とは瞬(またた)きはた(き)をする、ほんの一瞬(いつしん)という意味(い)です。昔(むかし)の人の感性(かんせい)は、素晴らしいですね。まさしく、生涯(しやうがい)滑(な)るることのない感性(かんせい)「センス オフ ワンダー」をもっていたのでしよう。大自然(たいたんぜん)と共存(きゆうぞん)する日々の暮(くれ)しのなかで、光(ひかり)の速度(そくど)が早い(はや)いということ(を)わかつていたのですね。さらに、「光(ひかり)を、かかげ、読(よ)ませました。「お陰様(おかげさま)」とは、光(ひかり)があたから陰(かげ)がでるのですよね、ですから、「お陰様(おかげさま)」ではなく、「お光様(おひかりさま)」ですよ。光(ひかり)をあててくれる(く)る目(め)にはみえない(見えない)大きな力(ちから)、支(た)えてくれる(く)る人に感謝(かんしゃ)の心(こゝろ)を忘れて(わす)れてはならないのです。たくさんの人(ひと)から光(ひかり)をあててくれる(く)るから、今の私(わたし)があるのですね。「お光様(おひかりさま)」でありませう。

今(いま)危機(き)的(てき)状況(じきうけい)下(げ)での生活(せいかつ)を余(あ)りなき(な)くされてはいます。ケネディ大統領(だいりゆう)は、物(もの)を失(な)くすと小さなもの(もの)を失(な)う、信頼(しんらい)を失(な)くと大きなもの(もの)を失(な)う、勇気(ゆうき)を失(な)くと、全て(すべて)を失(な)うと仰(お)っしゃいます。私(わたし)達は、「日本人(にほんじん)の勇気(ゆうき)を失(な)くすと、日本人(にほんじん)の勇気(ゆうき)」とは、「神(かみ)心(こゝろ)だ」と思(おも)います。どんな(に)辛い(つらい)こと、苦(くる)しいこと(を)あつても、必ず(かならず)、神様(かみさま)様(さま)御(ご)先祖(せんぞ)様(さま)が守(まも)って下さる(くださ)ることを信(しん)じて、事(こと)にあたる(あ)るという(い)うこと(を)です。朝(あした)にお誓(ちか)いを立て(た)、その目(め)標(ひょう)に向(む)かつて努力(どりよく)をし、夕(ゆふ)々(々)には感謝(かんしゃ)をささげ、明日(あした)の未来(みらい)を祈(いの)るという(い)う敬神(けいじん)崇(た)げ(おこ)し、いしんず(その)生活(せいかつ)に、「神(かみ)心(こゝろ)」「日本(にほん)人の勇気(ゆうき)がある(あ)る」と思(おも)います。さらには、「日々(ひび)は好日(こうじつ)ひび(わ)か(こ)つ(いで)いで、今日(けふ)が穏(おだ)やかで最良(さいりやう)の(さいり)ょう(の)日(ひ)である」と、前(まへ)向き(むき)に受け止(と)める謙虚(けんこ)な姿勢(せいし)に、「日々(ひび)よみがえり」、明(あ)るい未(み)来(らい)がある(あ)るのではな(な)いかと思(おも)います。「お陰様(おかげさま)の心(こゝろ)で、日々(ひび)よみがえり」、皆(みな)様(さま)方(かた)の自(みづか)ら心(こゝろ)から祈(いの)り申し上げます。

社務日誌抄

平成二十四年一月～六月

睦月(一月)

- 一日 初太鼓
歳旦祭、新年拝賀



- 三日 元始祭
- 五日 臨時巫女奉仕終了
- 十一日 六連島八幡宮歳旦祭並びに
島内戸別被い
西京銀行彦島支店竣工式
山口銀行彦島はってんくら
ブ正式参拝
- 十二日 山口県漁業協同組合
下関南風泊支店養殖わかめ
実行組合火入式
成人祭
- 十五日 どんど焼き
三菱重工業(株)指定店会正式
参拝
- 十九日



如月(二月)

- 二日 節分祭境内準備設営
- 三日 節分祭
初午祭、下関三井化学(株)・
彦島製錬(株)
- 十日 海上自衛隊 補給艦「はまな」
艦長以下乗組員正式参拝



- 十一日 紀元祭
建国記念日奉祝式典
- 十七日 天皇陛下病氣平癒祈願祭
祈年祭
- 十八日 横浜DeNAベイスターズ
下関ファン集いの会
日本一必勝祈願祭
- 二十五日 六連島八幡宮祈年祭
- 二十六日 田ノ首八幡宮祈年祭



弥生(三月)

- 十一日 東日本大震災復興祈願祭
- 十五日 南風泊恵比須神社例祭



- 二十日 春分祭祖霊祭
神道会総会
- 二十四日 なかべ学院竣工式
- 卯月(四月)
- 一日 勸学祭並びに新入学奉告祭
- 四日 氏子青年会 維蘇志会総会
- 七日 竹ノ子島金刀比羅宮例祭
前夜祭
- 八日 竹ノ子島金刀比羅例祭本殿
祭、御神幸祭
- 九日 六連島八幡宮荒神祭
- 十一日 日本グリース(株)下関工場内
稲荷神社例祭
- 十四日 舟島神社例祭
佐々木小次郎創客慰霊祭
流島の決闘より四百年)



- 十五日 敬神婦人会総会

- 十七日 舟島神社例祭奉納グラウン
ドゴルフ大会
- 二十一日 下関神社雅楽会奉納演奏会
- 二十五日 彦島地区戦没者慰霊祭
小型機船底曳網漁業協同組
合 大漁祈願祭

皐月(五月)

- 五日 子供祭
塩竈神社例祭
衣替え



- 十九日 福浦金刀比羅宮例祭宵宮祭
- 二十日 福浦金刀比羅宮例祭本殿祭
御神幸祭
- 二十七日 天皇后両陛下山口県行
幸啓 下関奉迎

水無月(六月)

- 二日 氏子総代 奉賛会理事総会
- 三日 早起会総会(於、満珠荘)
- 四日 山口県神職大会(於、山口県
神社庁)
- 十日 海士郷恵比須神社例祭御座
船選出神占神事
- 十六日 貴布禰神社境内稲荷社例祭
- 三十日 大被式





下関市長 中尾 友昭

彦島八幡宮社報「産土」に寄せて

まずは、この度、彦島八幡宮社報「産土」に寄稿の栄を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。また、彦島地区の皆様方には、平素より市政各般にわたりご理解ご協力賜り、深く感謝申し上げます。

折角の機会ですので、平成二十四年度の市政運営について触れさせていただきます。

今年度は市政運営のキーワードを、元氣・前進！下関とし、下関の元氣をさらに加速させてまいりたいと考えております。

具体的には、下関駅にぎわいプロジェクトや国際物流拠点の整備など、重点事業を引き続き積極的に推進するとともに、地域福祉や地元発注地元調達を推進し、さらには、地域防災力の強化に努めてまいります。

特に商工業の振興につきましては、やっぱり地元・大好き！下関運動の一環として、下関商工会議所が新たに開始されるスタンプ事業を支援し、地元消費の喚起と市内小売店の売上増進を図ります。また、市公共工事において最低制限価格設定額の下限を引き上げるなど、入札制度の見直しを実施するとともに、新規開発商品の販路開拓や新事業分野開拓への支援などを行い、市内企業の成長を促進してまいります。

また、NHK大河ドラマ「平清盛」や「巖流島の決闘四〇〇周年」をテーマにしたイベントの実施やPRを行いますとともに、国・県や事業者と連携した外国人観光客の受入れ強化にも取組むなど、国内外からの誘客促進に努め、交流人口の拡大と経済活性化を進めてまいります。

以上、今年度の市政運営について述べさせていただきましたが、これからも、市民の皆様が元気で将来に希望の持てるまちづくりを進めてまいりますので、彦島地区の皆様におかれましては、地域社会の発展のため「尽力賜りますようお願い申し上げます」。

最後になりましたが、彦島八幡宮、並びに彦島地区の今後益々のご発展と、彦島地区の皆様方のご健勝ご多幸を心からお祈り申し上げます。拙稿の結びとさせていただきます。

新年御供米料奉献会社御芳名

【*順不同、敬称略】

- タナカ機工(株)
(株)中冷
(株)マルゲン包材
山口県漁業協同組合彦島支店
下関唐戸魚市場(株)
(株)農水フーズ
(有)エポック
(株)田原工務店
キャボットジャパン(株)下関工場
(株)副田工務所
ジャパンマリン(株)
JA下関 彦島支所
松田内科クリニック
青木鉄工(株)
(有)上釜電機商会
三菱重工業(株)下関造船所
香洋工業(株)
大田造船(株)
末次ふとん店
(株)サントー
(株)美栄水産
(株)大庭工務店
(株)岡本鉄工
(株)大伸運輸
(有)アルマ
(株)下関酒造
大久保本店
(有)ステンレス工藝
関門三協工業(株)
山口県漁業協同組合
下関南風泊支店
池田興業(株)下関支店
古賀産業(株)
久保歯科医院
(有)大神商店
(有)南国シテイータクシー
(株)ライフクリーニング
植田木材(株)
(株)広洋エレクトリック
山口銀行(株)彦島支店
彦島眼科
下関菱重興産(株)
(有)丸山商事
ダイヤ電機(有)
(有)植田商会
みなと不動産
三宅商店
(株)彦島交通
(有)岩原クリーニング工業所
(有)ライス&ミルク上村
和田電機(株)
大日商事(株)
(株)室田組
(株)下関ユアサ建材
(株)ユキテクノ
(有)マルイチ彦島醸造工場
(株)共立機械製作所
熊本敦子
(株)ナカハラプリンテックス

*御献納賜りまして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。
更なる栄光とご隆盛をご祈念申し上げます。

平成二十四年 節分祭御協賛御芳名

平成二十四年節分祭斎行にあたりまして左記の通り多大な御協賛を賜りました。

(* 順不同、敬称略)

- 【設営協賛の部】
舞台花道設営
(株)新原工業
照明設備
(有)タツミ電工
【協賛金の部】
下関三井化学(株)
青木鉄工(株)
(株)田原工務店
西和建工(株)
彦島製錬(株)
(株)エム・シー・エス
キャボットジャパン(株)下関工場
日本サイトックインターストリーズ(株)下関工場
三菱重工業(株)下関造船所
サンセイ(株)下関工場
日新リフレテック(株)
下関唐戸魚市場(株)
協立運輸商事(株)
池田興業(株)下関支店
下関菱重興産(株)
(株)岡本鉄工
ジャパンマリン(株)
西中国信用金庫西山支店
(株)山口銀行彦島支店
(株)ナカハラプリンテックス



格別なるご芳心衷心より御礼申し上げます。

小次郎VS武蔵 巖流島の決闘より四百年



今を去ること慶長十七(六二)年四月十三日、当時豊前小倉藩領の船島(現、下関市大字彦島字船島)であったこの地において、佐々木小次郎と宮本武蔵が決闘して本年は四百年の節目の年でありました。敗れた佐々木小次郎の流儀「巖流」にちなみ巖流島(正式名称は船島ふねじま)と呼ばれるようになり、年間を通して全国各地より数多の観光客が訪れておりまして、関門地区の代表的な観光名所の一つとして定着しております。

平成十五年を佳節として、地鎮大神と龍神大神の守護神をまつる舟島神社の例祭と佐々木小次郎小次郎大人命の慰霊祭を、四十年振りに斎行致してより本年は第十回目を迎えました。

巖流島の決闘四百年雑感



株式会社巖流本舗

社長 水津 勉

「わが心いたく悲しみこの島に命おとしし人をしぞおもふ」歌人齊藤茂吉が大正一〇年に欧州への旅の途中、巖流島に渡りこの歌を詠み、菊池寛との間に大論争がおきた。この論争を契機に吉川英治が小説「宮本武蔵」を著し、戦後村上元三が小説「佐々木小次郎」を執筆。それまでの仇討物語や小次郎悪人物語を男の浪漫溢れる物語へと定着させたと思う。

決闘に勝たんと卑怯と云われようと万策を尽くす武蔵。正に命懸けなのだから是非も無い事かもしれないが、対する小次郎の潔さが死してその名を巖流島と残らしめたのではなからうか。

慶長十七年

巖流島決闘之刻

天才美剣士

佐々木小次郎

究極之日本剣法

秘剣燕返之技

真相は如何な物で

有ったかは知る由もないが、鍛錬に鍛錬を重ねた努力の武蔵、天賦に恵まれた小次郎。二人の男が命を賭けて戦い、敗者の名が巖流島として語り継がれて四百年。

御縁有り舟島神社例祭、佐々木小次郎大人命慰霊祭に長男共々お招きいただき、不徳ながら初めて参列致しました。その厳肅なる式典、柴田宮司さまの格調高いお話に感銘受ける事しきり。「巖流」を生業にする身に取って改めて一意専心、一所懸命を決意した次第です。



「巖流」という言葉の響き。「小次郎」という紅顔の美剣士を想像させる名。「燕返し」と云う洒落た剣の技。判官鼻肩氣質の日本人に、愛される人物像の要素満ち溢れた「巖流佐々木小次郎」の名に因む、お菓子達が弊社創業の地「彦島」は勿論、下関の皆様にも愛がって頂いているという事は、菓子屋冥利に尽きるの一言であり、有り難く思っています。

次なる節目五百年祭の頃も関門海峡の潮の流れは変わらず、島から望む海峡の美しさが保たれており、より多くの方々から集って小次郎を偲んでいる事を信じつつ..。

「小次郎の 眉涼しけれ つばくらめ」

(村上元三)

末社福浦金刀比羅宮 七百八拾参年例祭

平成二十四年五月二十日音行



「写真提供：中野英治氏」

氏青だより

天皇后両陛下 下関行幸啓奉迎助勢を終えて



維蘇志会会長代行
田原 照男

提灯奉迎についてですが、彦島八幡宮の受持ちは第三テントでの二千五百名の半数の受持助勢となりました。私を始め会員の皆様も千名以上の一般参加者の対応は大変であつたと思います。会場の都合で二千五百名で打ち切りとの事でしたが、始めはそれだけの人が集まってもらえるのが不安な気持ちもありましたが、十七時頃になると会場から元の水上警察署の方まで続いており、多くの方々の両陛下を奉迎したいという思いを感じました。予定の十八時より早めに受付を開始しましたが、予定数の提灯を渡し終えても列は続いており、その方々には日の丸の小旗を渡し、あるかばーと会場より遠くからグラントホテルの両陛下の提灯に合わせて小旗を振るといふ奉迎となりま

した。今回、「山口県民の集い」となっており、下関市外の市町村の方も大勢いらしたと思います。その方々の中にも提灯奉迎できず、陛下をより近くで奉迎したいという思いを叶えられなかつた方々の気持ちも考えた時、何とか方法は無かつたのかと感じました。平家踊り保存会西山連合の太鼓や踊りで始まり、君が代・聖寿の万歳も終え、提灯奉迎会場へ移動しました。しばらくするとホテル全体の部屋の灯りが消え、最上階の戸が開き、上下二連の提灯の灯りが横方向に振られるのが見え、両陛下のお出ましとなりました。その灯りに答えるように全員が提灯を横方向に振り、そのうち「天皇陛下、万歳」の声が会場全体を包み込み、大変感動を覚えました。真つ暗な中で見た両陛下の提灯の緩やかで神秘的な動きに、遠い昔から国民と両陛下の心が通じ合う廠かで大切な行事であつたのだと心より感じました。



前回もでしたが、両陛下のお姿をお車の中で通りすがりにお会い出来ただけで、本当に感動を覚えました。今回は海峡メッセの前でお車を降りられ、お手を振られるお姿により一層感動いたしました。よくパワースポットが何処にあるという話を聞きますが、私は、両陛下の地方に向き、お言葉を掛けられる場所が最大のパワースポットであると感じております。今回も赤間神宮での参拝の時に、宮司を始め巫女の一人一人に声を掛けられ、水野宮司が陛下よりお声を掛けられた時、心臓が飛び出すかと思つたと話されていたと聞きました。私も両陛下にお会いできただけで、これからの生活に張りが出て、より一層頑張らなくてはという思いを強くいたしました。

最後になりましたがご協力頂いた維蘇志会・敬神婦人会の皆様、本当にお疲れ様でした。有難うございました。

神道豆知識

「天壤無窮の神勅」とは？

『日本書紀』巻第二・神代下第九段の二節に

「豊葦原の千五百秋の瑞穂の國は、是吾が子孫の王たるべき地なり。爾皇孫就きて治らせ。行矣。實祚の隆えまむこと、当天壤と窮まり無かるべし。」

と、降臨した天孫 邇邇藝命が、天照大神から神勅を受けたことが記されています。

口語訳すれば、「豊かな葦原で、秋になると稲穂がたくさん稔る国は、私の子孫が統治すべき地です。皇孫よ、これから行つて統治しなさい。元気でおいきなさい。天皇の御位が栄えることは、当然に天地と共に永遠で窮まりないことあります」と表現できます。

邇邇藝命が、天照大神から稲穂の稔る日本を授かり、曾孫、初代天皇であらせられる神武天皇へと継承していき、「天壤無窮の神勅」が今日の日本の根幹を成す礎となっております。



境内史跡巡り

仲哀天皇駐蹕遺跡之碑

彦島者古稱引島地勢當關門海峽衝衝 仲哀天皇熊襲征伐之時維 御 艦于此島筑紫伊親縣主祖五十迹手参迎有所獻爾來一千七百二十五年 于茲矣而今也天下泰平商工殷盛彦島之地萬家連樁千帆蔽波復非往昔 蘆洲荻浦之觀本年一月有 東宮御成婚之盛事町民等誠歡誠喜折舞欣 躍俯仰古今不堪無量之感仍胥謀建碑以傳 仲哀天皇駐蹕之遺蹟兼為

東宮成婚之記念囑予作銘銘曰

西海有警 翠華親臨 東宮有慶 島民仰欽 以何誌言 情切感深 豐碑如鏡 明照古今

大正十三年九月

山口縣立教育博物館長 作間久吉 撰并書

〔書ぎト〕

彦島は古引島と稱し地勢は關門海峽へ衝き當る 仲哀 天皇 熊襲討伐の時維 御艦を 此の島に于いて筑紫の伊親縣主祖五十迹手が参り迎え 獻りし所に有り 爾來一千七百二十五年 茲に于いて矣 而 今や天下泰平商工殷盛し彦島の地 は萬の家樁を連ね千帆復す波を蔽い 蘆洲荻浦之を觀る往昔に非ず 本年一月 東宮御成 婚之盛事有り 町民等誠歡誠喜の折 欣び舞い躍り俯仰古今無量の感に堪えず 仍て胥謀し 碑を建てるを以て傳えむと 仲哀天皇駐蹕之遺蹟を兼 ねて爲す

東宮成婚之記念に囑せて 予銘銘作りて曰く

西海に警せ有り 翠華を親しく臨み 東宮に慶び 有り 島民欽み仰ぎ 以て何を喜び誌さむ 切情 深く感ず 豐碑は鏡の如く 古今を明るく照らす

大正十三年九月

山口縣立教育博物館長 作間久吉 撰并書

* 殷盛=極めて盛んなこと。 * 蘆洲=蘆あし)の生える洲 (す)。 * 荻浦=荻の生える浦。 * 誠歡誠喜=誠に喜ばしい 意。臣下が天子に奉る文書に用いる言葉。 * 俯仰=うつむき仰 ぎ見ること。 * 胥謀=互いに相談すること。 * 駐蹕=天子 が行幸の途中、一時乗り物を止める。又は一時その土地に滞在 すること。 * 銘銘=優れた事跡、心に刻み込んでいる事を確かな ものとして刻み記すこと。 * 翠華=天子の旗。 * 切情=ひ たすらに思つ心。 * 豐碑=功德を記した大きな石碑。



「仲哀天皇駐蹕遺跡之碑」は太古の昔、仲哀天皇が九州地方の豪族(熊襲)征討に向われる道すがら、この彦島の地に御足をお止めになった事跡を顕彰し、また、大正十三年一月二十六日の東宮、皇太子殿下(昭和天皇)の御成婚を祝して建てられたものであり、神池上の木立の中に静かに威厳をもつてた たずむ石碑です。この石碑の裏には、五行百四十六文字からなる漢文と四言八句の漢詩が刻まれています。碑が建てられた大正十三年より九十年を経た現在、兎角戦前の富国強兵、軍国主義の時代を忌避する余り、明治大正の時代までも好ま しくないものとする風潮も有りや無しや。しかしながら、文 明開化を迎え近代化が進む中に、外来文化と日本の古き良き 文化とが折衷された、新しい文化が育まれた大正の時代、国民 は伸びやかに近代化の波と共に元の大和心を失つこと無く 日本人らしい固有の精神文化を培つた時代、斯くも国民は 素直に純朴に、皇室の慶事を我がごとのように喜んだ時代が 確かにあったのです。この碑文からは、大正時代の清く麗し く暖かい国民の気持ちが見え隠れ致します。

今の混沌とした世知辛い世の中にあつて、この碑文を目に される事で少しでも心暖まる事が出来ますならば幸いと 思い、往時に思いを馳せ紹介をさせて頂いた次第です。

浅学につき、書き下し文の誤りなど目障りな点が多々ある つかと思ひます。「容赦ご了承願ひまして、正誤のご指摘を 賜れますならば幸いに存じます。

(禰宜 川西 裕久 拜)

八幡様の知恵袋 その二十五

シリーズ 伊勢の神宮式年遷宮について

日本人の心のふるさと、我國の総氏神様である伊勢の神宮【三重 重原伊勢市】では平成二十五年、第六十二回式年遷宮が斎行され ます。二十一年に一度斎行されます我國における最大最重要の行事 であり、社殿・装束・神宝等を新しくする祭祀行事をシリーズで紹介 してまいります。平成十七年から各祭祀行事が進行中で、平成二 十五年には正遷宮(御神体の渡御)が予定されています。 今回は霽祭(いらかさい)の次にあたる来夏平成二十五年最初の 行事お白石持行事(おしろいもちぎょうじ)です。

本年完成した正殿(しょうでん)が建つ御敷地(み しきち)に敷く白石を奉獻する行事です。平成十八、 十九年の二度に分け執行されました御木曳行事(お きひぎぎょうじ)と同様に、旧神領の住民が揃いの法 被(はつぴ)姿で、浜参宮(はまさんぐう)といい伊勢 市二見町鎮座の二見興玉神社前の「清き渚」と称され る二見浦で奉仕者全員裸行をした上で、内宮は 川曳 (かわびき)、外宮は陸曳(おかびき)でお白石を運び、 御敷地に奉獻します。御木曳行事(おきひぎぎょう じ)と同様、地元の旧神領民に加え、全国の「旧神 領民」も奉仕します。前回第六十一回のご遷宮(平成 五年)には約二十一人の奉仕者を数えました。

遷御後は、絶対に立ち入る ことのできない、正殿傍らま で参入することが許される唯 一の機会です。原則的には、一 日神領民も含め、御木曳行事 奉仕者が、引き続き奉仕する 事がもとめられます。我國の 選択無形民俗文化財(風俗習慣・ 祭礼(信仰))に選択されており、 式年遷宮後半最大の奉仕者が 集います。



〔写真提供:神宮司廳〕

安産祈願祭・ 腹帯清夜のご案内

彦島八幡宮は別名「子安八幡」とも称され、安産の神様としても崇められております。

腹帯をお清めされ、安産祈願祭を齋行されますことをご案内申し上げます。

各自腹帯もしくはガードルをご持参下さい。当宮の安産守護の御朱印を押印させていただきます。

古来より戌(犬)はお産が軽いとされることから、安産については、戌の日が吉日とされ、帯祝いなどにはこの日を選ぶ風習が伝承されております。懐妊五カ月が過ぎた最初の戌の日を選ぶ地方が全国的に多く見受けられます。

平成二十四年下半年の戌の日を表記いたしますので、ご参照下さい。



7月12日(木)	先負
24日(火)	大安
8月5日(日)	大安
17日(金)	大安
29日(水)	赤口
9月10日(月)	赤口
22日(土)	友引
10月4日(木)	友引
16日(火)	仏滅
28日(日)	仏滅
11月9日(金)	仏滅
21日(水)	大安
12月3日(月)	大安
15日(土)	先勝
27日(木)	先勝

七五三参拝の御案内



左記の通り、今年七五三をお迎えになるお子様を御家族の方共々にお祝い申し上げます。

お守り、千歳飴、知恵おこし、おもちゃをご用意致して、ご参拝をお持ち申し上げます。

数え年表記です

三歳 平成二十二年生まれの男子・女子

古くは髪置と言ひ、頭髪を伸ばし始める歳です。

五歳 平成二十年生まれの男子

古くは袴着と言ひ、袴を着用し始める歳です

七歳 平成十八年生まれの子

古くは帯解と言ひ、大人の帯を用い始める歳です

参考までに...

七五三の日は十一月十五日に制定されていますが、何故十五日かと言えは鬼宿日、日の吉凶判断などに使われる二十八宿の一つで二十八宿中の最良の日にあたり、天和元年(一六八一)十一月十五日に江戸幕府第五代將軍徳川綱吉嫡男 徳川徳松の健康を祈願した縁日であるためです

神前結婚式のご案内

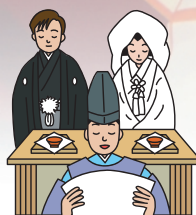
鎮守の杜で

美しく雅やかな結婚式を...

神前にて共に生きることを誓う、人生における最も重要な儀礼を、神聖な社殿で執行してみませんか。神道における最上の「産霊むすひ」行為を實踐し、日本の伝統「和の心」を継承致しましょう。

一〇〇名様対応の披露宴会場もあり、隣接の神社会館「瑞鳳殿」にて挙行できます。

詳細は社務所までお問い合わせ下さい。



お食事・仕出し(御弁当)はお任せ下さい

彦島八幡宮会館 瑞鳳殿の御案内

お友達やご家族との会食、披露宴、新年会、忘年会、歓送迎会、各種懇親会、年祭・法要等全てに対応しております。仕出し等の各種弁当もご利用できます。ご予算献立等詳細はご連絡下さい。完全予約制ですので予めご了承ください。

【予約センター連絡先】TEL 〇八三 一三三四 〇七三三【午前十時三十分〜】

社務所にて受付しておりますのでお気軽にご相談下さい。

洋ホール二〜一〇〇名様まで対応

和室十二畳 (六畳一部屋)

和室二十畳 (十畳二部屋)

【和室会席の場合=定員三十五名】



祭事暦

(平成二十四年下半年期)

文月(七月)

九日 六連島八幡宮七社祭

七つの祠(全て石造りのちいさな社)の世話人がお供え物と注連縄を持参し、順次祭典を執行。終了した者から自分のおもりする社に参拝し、注連縄と御神体の衣を替えます。これを「オキヌ替え」と称します。お供え物は、祭典前日、井戸を替その若水にて炊いた麦の団子と麦の粉をその若水でねった物を椿の葉にのせ、青竹の箸をそえた十二膳という特殊神饌です。

十五日 竹ノ子島天満宮例祭

彦島唯一の天神様です

二十四日 田ノ首八幡宮夏越祭

二十五日 六連島八幡宮夏越祭・戸別祓

二十九日 夏越大祓式・菅拔神事

三十日 夏越祭本殿祭・御神幸祭

*西日本最大規模の海上渡御

三十一日 海士郷恵比須神社夏越祭



葉月(八月)

五日 まほろば学級

情操教育の一環として、毎年下関市教育委員会の後援のもと開催致しております。詳細は夏休み前に、運営委員会より彦島地区各小学校に配布されます申込パンフレットをご参照下さい。



中旬 神道家中元祭



月次祭

毎月1日・15日

本殿前にて皆様方に終日「御神供米」をおわかち致しております。

宮司講話会

毎月1日

神社神道をはじめ時局問題、日本の伝統文化等々おみぜた話を宮司自ら講話致します。どなた様でもお気軽にご参加いただけます。

朝粥会

毎月21日 午前6時30分

誕生月の方全員に玉串拝礼をしていただきます。四季折々のお粥をご賞味下さい。



皆様お誘いあわせの上、お気軽にご参拝下さい。

長月(九月)

十日 若宮神社例祭・奉納平家踊り

夕刻より、ご祭神「仁徳天皇」に多くの老若男女が二日間わたり平家踊りを奉納致します。



二十三日 貴布禰神社例祭

秋分祭秋季祖霊祭

「祖先を敬い、亡くなられた人を偲ぶ日」という「秋分の日」にちなみ、家族の最も身近な祖霊に節目節目の祭儀を斎行致し、祖先の御霊に追慕の誠を捧げ、其の御加護を祈念致しております。



夏越祭

御神幸順路と予定時刻

【7/30日(月)】

本宮御発興 正面鳥居左折 下関三井化学内 三
 & 0 0 & 0 5
 井化学前信号を直進 十二苗祖墳墓 卯月峠經由
 & 2 0 & 2 5
 本村四つ角を右折 後山ジョイフル彦島店裏側坂を
 上り進行 みやぎ理容院を右折 南国マンション・
 & 3 5
 山口整形前交差点 県道を横断 江の浦2丁目坂を
 直進 関門トンネル上を右へ 塩谷公園横を通過
 & 4 5
 福浦2町へ 日ボリ産業前 山口三菱自動車角右折
 & 5 0
 進行 日本歯科薬品前 福浦橋を渡り塩浜へ
 & 5 5
 塩浜町民館前 サンデン彦島営業所内 大通りを
 & 1 0
 進行県道横断向井町を經由 山中町民館前 引き返し桜
 & 4 0
 ケ丘入口より峠を越し弟子待徳岡商店横を直進
 日本グリーン昭八幡前 引き返し 弟子待町民館前
 & 5 5 1:01 5
 弟子待を出て弟子待保育園を下り左折 芳無田公
 1:03 0
 園方向へ右折進行 なかべ学院 角倉町民館方向
 1:04 5
 へ 角倉公園 福浦山口銀行前 杉田信号
 1:10 0
 を右に進行 三菱至誠寮前を左に上り江の浦8丁目
 中通を進み県道に出て右折 下関菱重興産前 三
 1:11 5
 菱下船工場内 江の浦町民館前 サンセイ下関工
 1:12 5 1:15 5 1:21 5
 場内

昼食(於、本村公会堂 TEL 266-2219)

出発 老町 貴布禰神社階段下 海士郷恵比
 1:40 0 1:41 0 1:42 5
 須神社前「彦島漁協にて海上渡御準備」出船~

~~ 漁港内一周 ~~ 小戸口、彦島大橋下を抜け ~
 ~ ヒコットランドマリナービーチ沖を通過 ~

(西日本最大規模の御座船による“海上御渡”)

南風泊魚市場岸壁に上陸 魚市場前 南風泊漁協前
 1:54 5 1:55 0
 県道右折竹の子島に渡り前田造船所前引返し
 1:61 0
 西山町自治会館 彦島製錬 M.C.S 県道右
 1:63 0 1:64 0 1:64 5
 折進行 八幡宮前通過 キャボットジャパン
 1:65 5
 引き返し 荒田、絞バス停車前を左へ上り旧道を進
 行 彦島豆腐工場前を通り県道を右へ サンリブ
 彦島迫町店 本宮御還幸
 1:71 0 1:72 0

：修祓(一旦停止)箇所

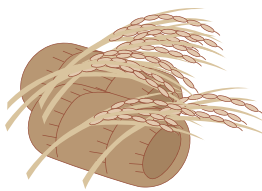
：お旅所(祭典、小休止)箇所

四日 六連島八幡宮例祭前夜祭・湯立神事
 本殿裏にて忌火で沸かした湯に
 藁(わら)の輪飾に青竹に挟んだ
 人形(ひとかた)
 を四体立て、御幣
 で掻き混ぜた後、
 柄杓にて一杯すく
 い神前に献湯する。
 五日 六連島八幡宮例祭本殿祭・御神幸祭
 十三日 田ノ首八幡宮例祭前夜祭
 十四日 田ノ首八幡宮例祭本殿祭・御神幸祭
 敬神婦人会境内清掃活動
 十七日 神嘗奉祝祭
 二十日 秋季例大祭・前夜祭
 二十一日 秋季例大祭・本殿祭・御神幸祭
 無形民俗文化財、サイ上り
 神事、午後三時
 彦島歴史ウォーク
 下旬 懸崖・菊花展



神無月(十月)

二日 明治祭
 明治天皇さまのご生誕とご
 聖業を讃えるとともに、「ご皇
 室の更なるご繁栄を祈願する
 祭事です。」
 十五日 七五三祭
 新穀を御神前へお供え致し、本年の収穫を天神地祇(八
 百万の神々)に感謝申し上げます。
 二十三日 新嘗祭
 二十五日 六連島八幡宮新嘗祭



霜月(十一月)

二日 大注連縄奉製・煤払式
 本年刈り取って干した
 稲藁を使用し、青々しい
 立派な大注連縄を総代関
 係者にて奉製致します。
 三日 祈漁祭
 通称「ボラ祭り」とも言い、ボラ漁解禁の日に因み、大
 漁祈願と海上安全祈願を齎行致します。
 二十三日 天長祭
 今上陛下の御誕辰を言祝ぎ更なる皇室の弥栄をお祈りす
 る祭典です。
 天長祭とは、古来、唐の玄宗皇帝の誕生日を天長節と祝つ
 た事に由来します。天長とは老子の「天長地久」という言
 葉に由来し、「天にとこしえなる事」の意を含んでいます。
 正月臨時巫女奉仕者説明会
 守札授与品清祓式
 大祓式
 除夜祭
 三十一日
 平成二十四年をしめくくる最後の祭典です。

師走(十二月)



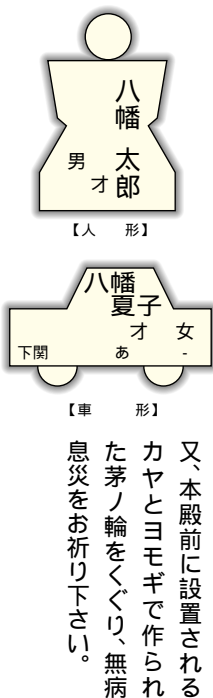
前夜祭

七月二十九日(日)

午後五時より前夜祭(大被式並びに菅抜神事)斎行
 人形(★左図)に氏名・年齢・男女の別を記入(車形の場合は、車のナンバーも記入)し、息を三回吹きかけ、分魂を宿らせます。こちらを当日までに社務所までご持参下さい。
 ご持参いただいた人形を、神職がお焚き上げし、半年間の生活の中で気付かぬ内に身に付いてしまった罪や穢を悉く払い清めます。
 人形並びに車形を社頭にて無料にて頒布致しております。社務所までお気軽にお申出下さい。



夏越祭



御神幸祭・海上御渡

午前七時三十分より本殿祭・発願齋行

煙火の合図により午前八時御神輿出発

彦島各町内におみこしをお駐めし、会社、工場を始め皆様方の安全ご繁栄を祈願致します。

本誌十二頁の順路時刻予定表をご参照の上、最寄の御旅所にておみこしにお参り戴きますようご案内申し上げます。

尚、午後三時よりは海士郷町の彦島漁港より御座船におみこしをお載せて彦島大橋下を通過、西山海岸沖を経由、西山町の南風泊漁港に至る区間、西日本最大規模の海上渡御を執行致します。

前夜祭

十月二十日(土)

午後五時より前夜祭神事斎行
 彦島ふく鍋
 福引大会(空クジなし/豪華景品多数!)
 奉納芸能大会(各種奉納イベント開催)
 バザー&露天
 神社絵画展覧会
 生花展示会



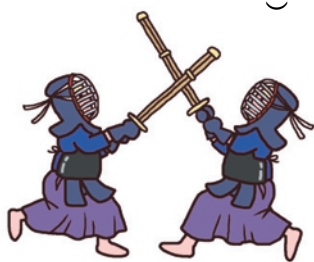
秋季大祭

御神幸祭

十月二十日(日)

本殿祭(午前十時三〇分)、初輿祭(午後二時)
 無形民俗文化財『サイ上り神事』(午後三時)斎行
 彦島歴史ウォーク(午前八時三〇分受付開始)
 奉納剣道大会
 子供神輿練歩
 彦島ふく鍋

福引大会(空クジなし/豪華景品多数!)
 奉納芸能大会(各種奉納イベント開催)
 バザー&露天
 神社絵画展覧会
 生花展示会
 ジャンボかぼちゃ展示会



編集後記

さて、今年も変わる事無く二月十七日農耕祭祀の皮切りとして祈年祭が斎行され早四ヶ月余り。田植えも終わり、水田には瑞瑞しい青色の稲が日々生長している。

今日の今上陛下に至るまで代々の天皇様は、御手ずから稲を栽培され、御身足を水田につけてお田植えをされる。収穫が終わると神嘗祭、新嘗祭で、収穫をご奉告あそばされるところ太古より不変の祭祀を継承されてこられた。

ご皇室を仰ぐ日本国民には、先祖より脈々と受け継がれてきた血肉の中にDNAが生きて続けている。だからこそ、我々が生かされている事は、ご皇室あつての事だと感謝の念を抱いてやまない。

日本人の生活・文化、言動、祭祀儀礼の様式を確立され、畏れ多い事であるが我々の有難も尊い、謂わばお手本であらせられる陛下をはじめとするご皇室の方々には、尊大なる敬意と忠誠の一念である事は言つてもない。

殊に、本年は陛下のご病状が大変ご心配された時期に、昨年の山口国体に引き続き、両陛下御揃いにての山口県行幸並びに来閣と、山口県民、下関市民には奉迎に際し、この上ない感動と貴重な機会を賜り万感の思いであつたであらう。

此の度の行幸啓で、今あらためて長州人のDNAが覚醒したと信じて止まない。それ故一分一秒国民に御心を寄せられる親愛に報いるために、我々は両陛下のご尊顔を拝し奉った証を胸に刻み、皇室且つ又日本の心のふるさと伊勢の神宮に思いを馳せて、生きていかなければならない。

未筆乍ら氏子崇敬者をはじめご神縁いただいた全ての皆様方のご健勝ご多幸、更には稔り多き下半期であらん事をお祈りし、編集の結びとする。
 (山本)

発行所 彦島八幡宮社務所

下関市彦島迫町五丁目十二番九号

TEL 〇八三二 六六 〇七〇〇

FAX 〇八三二 六六 五九一一

ホームページ <http://www.hikoshima>

発行者 柴田 宜夫

編集者 山本 光徳

平成二十四年七月一日

印刷・糊ナカハラプリンテックス